

金山坑道で古酒熟成

佐渡・尾畑酒造 米国でも販売へ



金山の観光坑道で熟成され、運び出される古酒（12日、佐渡市で）

佐渡市の尾畑酒造は12日、市内の観光施設「史跡佐渡金山」の坑道内で熟成させていた古酒計40本を取り出した。「佐渡島の金山」

の世界文化遺産登録を記念し、今年から国内のほか、米国でも販売する予定という。

同酒造は1992年に坑内で熟成を始め、現在約3400本を寝かせている。坑内は日光が入らず、年間

を通して気温が10度前後に保たれるため、酒の味がまろやかになるとされる。

この日取り出されたのは、2018年産と19年産の2種類。ラベルを貼り、化粧箱に入れて出荷する。同酒造の平島健社長（59）は、「海外の方に飲んでほしい、島に来てもらいたい」と期待を込めた。坑道内はコーヒー豆の熟成にも利用されている。施設を運営するゴ

ールデン佐渡の鈴木徹社長（62）は「地元にも貢献できる施設として活用してもらいたい」と話した。